

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|-----------|-----------|
| 事業所番号 | 2472900113 | | |
| 法人名 | 医療法人 豊和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム やまもも | | |
| 所在地 | 三重県志摩市阿児町国府1061-153 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年 2月 20日 | 評価結果市町提出日 | 令和2年3月26日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2472900113-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 令和 2 年 3 月 9 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院であり、24時間医師や看護師と連絡が取れる体制になっており、2週間に1回健康管理のため訪問診療を実施しています。また、希望により訪問歯科の診察や口腔ケアを受けられます。隣接している老健施設とは、リハビリが必要な状態や認知症が重度化した場合の協力体制があり、また、その他の法人が運営している施設とも連携を取り、柔軟な対応をしています。ホームの前には畑があり、地域の方々の協力のもと季節の野菜や花を植えて収穫を楽しんでいます。入居者様の笑顔あふれるホームとなるよう、職員はおひとりおひとりに合わせたサービスの提供を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より20年目を迎える事業所である。母体の医療法人や隣接する介護老人保健施設とも、柔軟な連携が取れている。2000年開設当時より、事業所独自の理念は、「ゆったりとした雰囲気の中で 出来る事を分かち合い 共に生活します」として、当時よりパッチワークで手作りされた理念の文字が掲示され、現在でも変わらずに引き継がれてきている。事業所内の衛生保持には細かく手を尽くされており、手摺り消毒は基より、利用者のシルバーカー持ち手にも消毒を施行している。リネン類の衛生保持にも配慮され、利用者の健康生活を第一に支援を継続している。日々の生活では利用者を尊重し、職員が利用者に寄り添って、一緒に過ごす場面や時間を大切に、利用者との職員との明るい会話が弾む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 常に心の内に意識し、温かい気持ちで実践できるよう、パッチワークで理念を作成し見易い所に掲示している。 | 20年前の開設時より、事業所独自の理念のパッチワークが、今も変わらず大切に掲示されている。その製作者が現在ではパート職員に加わり、全職員が理念に添った実践を目指している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 老人会のカラオケの会や地域の行事に参加するよう心がけている。地域の方がお越しになる運営推進会議に入居者様も参加いただき、交流して頂いている。 | 地域で老人会主催の月1回カラオケ参加は利用者の楽しみで、生活の自信にも繋がりが喜ばれている。敷地内の畑には地域の方々の協力もあり、利用者は水遣り・草取り・収穫などで交流が持っている。四季のお祭りやイベントには、ポスター案内を見て、利用者と共に見学や参加交流をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の研修会などに参加した折には、認知症専門施設の職員としての経験を活かした意見を述べるなど、積極的に参加するよう心がけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | グループホームの活動状況の報告を行い、相談に応じて頂いたり、アドバイスや、ボランティアの情報、地域のサークル活動など有用な情報収集の場になっている。地域密着型としてのより良いサービスの提供に活かしている。 | 会議は年に6回開催され、地元地域の応援者や理解者との情報交換の大切な機会となっている。家族への参加呼び掛けにも取り組みを続けている。今後はテーマの検討や参加メンバーを広く募り、更なるサービス向上に活かせるよう検討に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2カ月に1回の運営推進会議には必ず参加頂き、様々な情報を頂いたり、疑問に答えて頂いたり、顔見知りの良い関係を築けるよう努力している。 | 事業所指定更新に係る書類や手続き等、市の担当者と連絡を取り合い、力になって貰っている。市からの研修案内で、「虐待」に関する研修に事業所から参加出来たので、情報収集にも役立っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体的な拘束はもちろんであるが、精神的な拘束となるような声掛けはないか等、常に入居者様の立場になり配慮するよう気をつけている。研修会などにも参加し、啓発に努めている。 | 身体拘束委員会は、毎月の全体会議でも報告や検討がされ、全職員に伝達・周知されている。ヒヤリハット報告も積極的に取り組まれている。言葉・介護技術・敬語・接遇・倫理的配慮等、多岐にわたり目指す処のチェックを職員が個々に行い徹底している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修に参加したり、報道などから事例を取り上げ職員同士で検討する機会を作っている。常に施設内で、身体的虐待は言うまでもなく、精神的な虐待などが行われていないかお互いでチェックし徹底している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の研修会に参加したり、パンフレットなどを集め活用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 相談員と管理者が同席し、契約書に沿ってゆっくり説明を行い、疑問についてはその都度丁寧に回答し、納得いただいたうえで契約を進めるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 相談先を分かり易く掲示したり、ご意見箱を設置し、意見や要望をくみ取るよう心掛けている。又、面会でホームを訪れて頂いた際は沢山コミュニケーションをとり、些細なことでもご意見として運営に活かせるよう取り組んでいる。 | 「やまもたより」を通じて、家族との小さなやり取りも話題に触れ易く、何でも話し易い雰囲気作りを心掛けている。今年度は事業所独自の「家族アンケート調査」を検討して、利用者や家族の意見を更に現して貰えるよう取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回、やまも会議として職員・管理者・事務長参加のもと、会議を開催して様々な意見交換の場として活用している。管理者は常に、職員の一員として業務にも携わり、他の職員とのコミュニケーションを大切にしている。 | 事業部管理部長と事務長参加での職員会議が月1回開催される。職員の要望や提案をホーム長が吸い上げて会議で述べ、結果は職員に伝達する仕組みである。勤務時間の変更希望を出した事で、職員会議により「シフト時間変更」が実現出来、職員の達成感ややりがいの声が出ている。また年1回の職員個人面談では、部署異動希望や定年後の働き方等の相談に乗っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の業績考課を実施、個々の能力や実績が給与に反映されるシステムが出来ている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人全体として、介護技術の向上のための研修を全職員対象に実施している。成績優秀者には報奨金が出るなど、やりがいを持って取り組めるような研修になっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 志摩市の介護サービス事業者連絡会に所属し、他の施設の職員さんと交流したり、連絡会主催の研修会に参加し、サービス向上のために努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前のインテークの際は、相談員と管理者がご自宅を訪問し、要望等伺い、信頼関係の構築に前向きに取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所の際は、生活歴など詳しく聞き取りを実施し、その中でどんな事をサービスとして提供すべきか等、一緒に考える機会を持っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームの生活の中で、ご本人やご家族にとって、一番望んでいる生活のスタイルを見極め、ケアプランなど作成に取り入れている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 過去の職歴や生活歴から入居者様の得意分野を見出し、暮らしの中で活躍する場面をつくり、ともに毎日の生活を支えている対等な関係と感じて頂けるよう接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会などでホームにお越し頂いた際は、入居者様の近況報告やエピソードを伝えるなど会話の機会を大切に、入居者様を共に支え合っている事を感じて頂けるよう配慮している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご友人や知人の方がお尋ね頂いた時は、ゆっくりして頂けるよう居室にお茶や椅子の準備をさせて頂いている。また、気候の良い日は、地元へドライブに出かけたりしている。 | 友人や知人の面会時には、居室に職員がお茶とお菓子でもてなして、関係継続を支援している。在宅時より「かかりつけ医」継続の利用者は馴染みの先生であり、利用者や家族への繋がりを大切に支えている。お盆や正月に自宅へ外泊する方もあり、家族とは情報をやり取りしながら支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲の良い方、相性が良くない方など入居者様同士の関係をしっかり把握し、トラブルやストレスのない毎日が送れるよう、食席の配置など配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や転所された場合は、管理者が訪問したり、家族からの問い合わせ等は、丁寧に対応するよう心掛けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃からコミュニケーションを積極的に取るよう心掛け小さなヒントも見逃さないようにしている。意向が確認できた時は全職員で共有し、実現に向け前向きに検討している。 | 入浴中にほんの一言漏らされた言葉でも、全職員にノートで伝えている。話をされた後には「今は大丈夫ですよ」と、職員は目線を合わせて、気持ちの返事もして、利用者の気持ちを捧げるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に生活歴など聞き取りを行い、これまでどんな生活をしてこられたのか、これからどんな生活を望まれているのか把握しサービス提供に活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | アセスメントで、出来ること出来ないことシートや心身の状態チェックシートを作成しケアプランや日常の関わりにかかしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回の職員参加の会議で、個々のケースについて検討し、介護計画を作成している。作成後は分かり易くご本人に説明し、家族にも面会時などに説明し同意を頂いている。 | 介護計画の見直しは原則3ヶ月毎に行われ、定期的にモニタリングが行われている。家族からの思いや意見要望を視野に入れ、日常の暮らしの中で本人の思いや意向が活かされた介護計画である。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の入居者様の介護記録やワークシート、申し送りノートを必ず出勤後に確認し、情報の共有を行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日頃から情報収集を意識して行い、入居者様一人ひとりの要望に応えられるよう全職員で創意工夫し取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議の場を有効に活用し、参加者様から地域資源の情報を頂き、入居者様のニーズにあわせ活用するようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様のご希望を第一にかかりつけ医を選んで頂き、受診の支援や医師との連携に積極的に取り組んでいる。法人の医師を主治医とされる場合は定期的な訪問診療を実施している。 | 同法人豊和病院がかかりつけ医の利用者8名は、月2回の訪問診療を受けている。1名は他のかかりつけ医で家族が受診対応している。夜間緊急時には看護師やホーム長に一報を入れ、豊和病院当直医師の指示により対応が出来るようにマニュアルがあり、実際に稼働出来ている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携の看護師とは24時間連絡が取れる体制であり、日々の様子も介護記録やワークシートを活用し情報共有している。非常時でもすぐ駆けつけ適切な対応を依頼している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | グループホームの相談員が窓口となり、病院との調整や入居者様の情報交換を行い、適切な治療を受けて頂けるよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の指針については、入居の契約時に大まかな意思確認を行っているが、終末期となった時は医師立会いのもと話し合いを行い、看取りについて支援する体制である。 | 開設より看取りは経験を積み、「なるべく慣れた場所で、長く最期まで」と、本人・家族の思いを歴代のホーム長は職員に伝えてきている。同法人老健での「エンゼルケア研修」への参加で、実習体験等にも取り組んでいる。看取り時期が近づいた時には、職員皆がチームで看取りへの支援体制が育まれている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応についてマニュアルがあり、職員に周知している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、出火想定で避難訓練を実施している。うち1回は夜間想定で行い、隣接の老健施設より避難誘導の応援で駆けつける体制の訓練も行っている。また、避難経路の整備も行い、安全に移動できる体制を整えている。 | 隣接の老健施設と合同での訓練を含め、年二回防災避難訓練を実施している。ヘルメットは玄関の目立つ場所に設置され、3日分の備蓄品(水・食糧・ガスコンロ他)も一覧表で期限をチェックしながら無駄無く、食事にも取り入れて工夫している。 | 事業所は高台に位置した耐震構造建築である。しかし地震想定訓練が今迄実施が無い事に危機感を持たれ、利用者の大切な生命を守る為に訓練を計画される事に期待する。また職員への緊急時連絡網の実施をされ、臨場感を持った訓練をされる事に期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | お世話させて頂いているという気持ちを忘れず、日常の何気ない言葉にも尊敬の気持ちを込めて話すよう気をつけている。また、特に排泄や入浴などプライバシーに配慮する場面は、ことさら気を付けるようにしている。 | いつでもどこでも、人生の先輩であり、目上の人を大切に思う、尊敬の気持ちで利用者との会話には気を付けている。排泄の場面ではドアやカーテンの開け放しや、大きな声での呼び掛けには注意している。日頃の関わり合いから、配慮は決して忘れずに気を付けて支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 問い掛けの言葉選びで、入居者様が答えやすいよう言い方を変えたり、選択肢を用意したりして自己決定を促すようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 大まかな一日の流れはあるが、入居者様一人ひとりの希望に沿って柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の整容などは出来るだけ居室の洗面所前で、ゆっくり時間をとって頂いている。ご希望に応じ、スキンケア用品を用意させて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や配膳など、入居者様にも積極的に参加して頂き、一緒に作って食べる、楽しい時間となるよう支援している。後片付けも、個々の能力に応じて参加頂いている。 | 隣接老健の管理栄養士による献立表から、買物食材をネット注文で1週間分が届けられる。3食共に職員からのメニュー紹介と、全員での嚥下体操は日課である。出来る方は調理の手伝いに参加し、職員も利用者と同じ食事を一緒に食べる家庭的な団らんの時間が持たれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月1回体重測定を実施、医療連携の看護師に報告し健康管理に努めている。特に水分摂取は、便秘気味の方には不足にならないよう、食事以外でもペットボトルで配茶し、十分に摂取して頂くよう配慮している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、自身で歯磨きをして頂いている。月2～3回、訪問歯科によるケアがあり、口腔内の管理やケアについての助言を頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録により個々の排泄パターンを把握し、出来るだけ自立した排泄を行って頂けるよう支援している。特に、声掛けはプライバシーに配慮した声のトーンや言葉の選択など配慮している。 | 布パンツで排泄自立の4名は、心配もありパットを使用して様子を見ている。日中はトイレで自立でも、夜間はポータブルトイレ使用により自立への支援を行なっている。排泄チェック表では個別に排泄パターンを把握して、自立に向けた支援に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄の記録を作り、個々の状態を把握している。便秘気味の方は、水分の補給や体操などを促し、自然な排便につながるよう支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 風呂は毎日準備しており、週に2～3回のペースでお入り頂いているが、ご希望に応じ毎日でも入って頂ける体制である。 | 入浴は毎日午前中で、一人週3回をペースにして、希望者には応じられる体制である。入浴拒否の方もいるが、湿布を沢山貼って欲しい方や爪切りをゆっくりして欲しい方等の希望に添いながら、ゆっくりと向き合い、楽しみのある入浴を工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 寝具は定期的に交換し、いつも清潔な状態でお使い頂いている。夜間だけでなく、日中でも休息できるようになっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書のファイルを作成し、職員がすぐ確認できるようにしている。投薬した職員は必ず記録を残し、間違いや投薬漏れのないよう支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | グループホーム内の仕事を出来る範囲で手伝って頂き、入居者様がやりがいを感じて頂けるよう支援している。また、四季ごとのイベントを企画し楽しんで頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節ごとのお花見や、外気浴など積極的に行っている。施設前の畑作りは入居者の楽しみなので、天気の良い日は出来るだけ土いじりをしていただけるよう配慮している。ご家族も入居者様との外出を楽しんで行って頂いている。 | 玄関前に手作りの新聞受箱が置かれ、元気で安定した利用者が外に出て毎朝受け取りの役割が日課である。隣接老健にて月1回体重測定の日があり、外の散歩コース周りを兼ねて出掛けている。日常の天気の良い日は、敷地内の畑で土いじりも楽しみの一つである。季節毎に車で花見等の遠出の外出支援も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一定額のお小遣いをお預かりしグループホームで管理しているが、利用者様のご希望に応じ一緒に買い物の支援に出かけたりしてお使い頂いている。収支は毎月ご家族に報告している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様のご希望に応じ、電話をご利用いただいたり、電話の会話が難しい方には、職員が間に入り要望をお伝えしたりするようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的な雰囲気大切に、季節の花を飾ったり、食事作りの匂いを感じて頂いたり、自宅でくつろいでいるような気分になって頂けるよう工夫している。その一方で感染症対策も怠らないよう、清潔な空間づくりに配慮している。 | 玄関入り口からパッチワークや手作り手芸作品が目に入り、家庭的で柔らかい雰囲気が感じられる。居室前や廊下にも手芸作品が飾られている。リビング兼食堂からは敷地内のやまもの木が目に入る。また、キッチン前面の鏡からはリビングの利用者の様子が見て取れる様な工夫がされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間では適度な距離を保ちつつ、気の合う方同士がおしゃべりなど楽しめるよう、座る位置などに配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には使い慣れた家具を置いたり、家族の写真を飾るなど、利用者様がゆったり落ち着いて過ごせる空間となるよう、自由にお使い頂いている。また、転倒など事故のないよう職員がさり気なく整頓させて頂いている。 | 各居室には洗面台が設置され、昼食後に利用者が口腔ケアを丁寧にする姿がみられる。ベッドと広いクローゼットが備えられ、他には自由に持ち込まれた馴染みの道具や日用品が飾られている。ベッドの位置は歩行能力に合わせて、その方の動線に応じて居心地良く過ごせるように設置されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリーかつ、手すりが設置されているので、自身で安全に行きたい所へ移動できる。トイレなどのサインは大きく分かり易く、認知症の方でも理解できる掲示にするよう工夫している。 | | |